

2018 年度 SUPA 全日本選手権/SUPA 公認大会レギュレーション

SUP レースクラス

(予選) 各地区 SUPA 公認大会における全日本出場基準は以下のとおり

※SUPA プレミアム会員であること

※各地区公認大会における全日本出場権獲得は、エリートクラス（5 Km 以上）では、制限時間内（5 Km は **TOP がフィニッシュしてから** 20 分を基準とし、1 Kmごと距離が長くなれば、10 分加算とする）で完走した選手のうち、上位 50%以上、オープンクラスでは完走者のみが出場権を獲得するまた、ビギナークラスは SUPA プレミアム会員であること

※SUP レースクラスにおける世界大会への選抜選手はエリートクラスが対象

※SUPA/SUP レースでの競技ルールは 2018 年 3 月中に公開予定

(2018 年度全日本選手権：開催案内)

(1)レースカテゴリ：ロングディスタンスレース/テクニカルレースの 2 種目

- a. エリートクラス（男女）（12.6ft 以下）
- b. オープンクラス（男女）（以下記載）
- c. ビギナークラス（男女）（12.5ft 以下）

※SUPA 全日本 SUP 全日本選手権での入賞経験者を除く

(2)エキップメント

(エリートクラス)

- a.12.6ft 以下のレースボード（幅、重さ、材質に制限はなし）

(オープンクラス)

- a.12.6ft 以下のレースボードクラス
- b.12.6ft 以下のインフレーターブルクラス
- c.14.0ft 以下のインフレーターブルクラス

(ビギナークラス)

- d.12.5ft 以下

（サーフ/インフレーターリングの形状で、かつ、市販のプロダクションとして販売されているボード形状でカスタムボードも可。但し、レースボード、改造ボードは除く）

(3)距離

- a. エリートクラス（15Km）
- b. オープンクラス（6Km）
- c. ビギナークラス（3Km）

(4)ジュニア（中学生）/ユース（高校生）/Kids（小学生以下）

- ✓ 予選会でのこのクラスの開催可否は主催者判断
- ✓ 距離は3 Km 以下を想定
- ✓ 全日本についてはエリートクラスとのダブルエントリーは不可
- ✓ 予選会なしのエントリー受付とする

(5)シニア（60 歳以上）

- ✓ SUPA 公認大会（予選会）でのレース完走者
- ✓ 距離は3 Km 以下を想定

SUP サーフィンクラス

(予選) 各地区 SUPA 公認大会における全日本出場基準は以下のとおり

※ジャッジ基準は NSA のジャッジ基準に準ずる

※クラス分けについては、原則スペシャル/オープンとするただし、募集人数によってクラス分けできない場合は大会エントリー登録クラスに基づきポイントが付与される

※全日本出場権獲得については、SUPA 公認大会（予選会）において、ラウンド 1 通過選手

※ヒート時間の前提：予選 13～15 分、ファイナルは 15～20 分を推奨

※最低 1 ラウンド 4 ヒート以上推奨（ヒート人数は規定しない）

注） 1 ラウンド決勝の場合 5 人までとする

※各地区公認大会でのダブルエントリーは主催者の判断可否による

(2018 年度全日本選手権：開催案内)

(SUP サーフィン/ショートクラス)

a.スペシャルクラス（男女）※年齢制限なし

b.オープンクラス（男女）

イ) 年齢別クラス（共通）

- ジュニア（中学生）/ユース（高校生）/Kids（小学生以下）

ロ) 年齢別クラス（男子）

- 39 歳以下（メンクラス）
- 49 歳以下（シニアクラス）
- 50 歳以上（マスタークラス）

ハ) 年齢別クラス（女子）

- 40 歳未満
- 40 歳以上

(SUP サーフィン/ロングクラス)

- a. ロングボードクラス※年齢制限なし
(男女、予選会から男女分け)
- b. 9.0ft 以上のボード使用が前提

SUP サーフィンルールおよび審査方法について

※ライディング採点基準はNSAルールを採用する

※競技時間及びレギュレーションは以下の通りとする

- 1) 1ヒート基準とし13分～15分 に設定する
【ファイナルヒート 基準とし15分～20分を目安とする】
R1～セミファイナル 13～15分 : ベスト2～4 マキシム 8～12
ファイナル 15分～20分 : ベスト2～4 マキシム 10～12
【波のコンディションによりコンテストディレクターとヘッドジャッジによって決定する】
- 2) 基本ウェーブカウントは選手各自にて管理し競技に臨む
【競技中、放送にて競技時間の経過、タイムスケジュール進行を行う】
【競技中に選手の希望にてウェーブカウントアナウンスも対応出来る限りにて行う】
- 3) ヒートスタート前の選手はスタンディングをしてはならない
【ゲティングアウト時も同様スタンディングを行ってはならない】
【身体上の都合にてやむをえない場合は例外とする】
- 4) ピーク優先、ファーストターン優先
【アプローチする波の突端 ピークに近い者を優先とする】
【波を捉え最初に進行方向を定め明確にボードを傾けターンをした者を優先とする】
- 5) 互いに向かい合った方向にライドする際には、危険回避を行う
【危険回避を行わず、意図的にラインクロスまた接触した際、両者共に妨害減点とする】
【接触事故による問題は双方にて解決し、主催者、運営側に責任を問うことは出来ない】
- 6) ヒート中の波待ちはスタンディングを義務とする
【ヒート中の波待ちをスタンディングせず行った場合、そのヒートのトータルスコアより1ポイント減点する】
- 7) ヒート中のゲティングアウトはスタンディング、ニースタンド、腹ばいを問わない
【ヒート選手のライディングの邪魔にならない様に指定されたポジションからゲットする】
- 8) 競技時間はオフィシャルによって計測され、ホーンにて告知する
【 開始時 1回 終了時 2回 】
- 9) 競技時間はタイムパネル（旗の場合もあり）によっても表示を行う
【開始時 緑 終了3分前 黄 終了時 赤 】
- 10) 競技開始は通常沖のラインナップから行うが、状況によりビーチスタートで行なう場合がある

- 1 1) 競技開始はホーンのなり始めた時点とする
【インアーリー競技開始ホーン前のライディングは採点しないと同時に減点となる】
- 1 2) 競技終了はアナウンスで終了 5 秒前から 1 秒毎にカウントダウンし「 0 」のコールと同時に鳴らされる
1 回目のホーンによる
【ヒート終了後のアップアフター、スタンディング及びライディングは減点となる】
- 1 3) 運営側にて、タイムテーブルを会場アナウンスにて周知を行う
【基本的に選手は個々のタイムテーブルを確認し自己調整を行わなければならない】
- 1 4) 競技時間内にマキシムウエーブを満した選手は速やかに腹ばいにて退水しなければならない
【マキシムウエーブを満しなお退水しない選手は減点となる】
- 1 5) ヒート途中での競技時間延長は行わない
【何らかの理由により競技が中断された場合、その時点から再スタートし、残り時間を競技時間とする】
- 1 6) 採点方法はベストウエーブの合計得点の高い順に順位をつける
【例、ベスト 2 ウエーブの合計点数を計算して順位を決めるが、同点の場合はベスト 1 にて決める】
【ベスト 1 にても同点の場合はベスト 3、4、5 にて同点が崩れるまで繰り返される】
- 1 7) 一度コールされたヒート結果については覆す事は出来ない
【ヒート結果を変える事はできないが、指摘内容、意見内容を参考意見とし申し入れできる】
- 1 8) 正式タイムスケジュールはコンテストディレクターとヘッドジャッジによって決定する
【減点及び指導、指摘は同様、コンテストディレクターとヘッドジャッジによって決定する】
- 1 9) コンテスト（競技）エリアフラッグを設置し競技を行う
【ヒート参加選手は競技エリアフラッグ内にて競技する】
- 2 0) 明らかに競技エリアフラッグ外からのライディングは採点対象外とみなす
【何度となくエリアフラッグ外からのライディングを繰り返す選手は減点となる】
- 2 1) 減点は毎ヒートごとトータルスコアから最大 1 ポイントとする
【大会（イベント）開催中に減点 3 を受けた選手は失格処分とする】
- 2 2) ヒートに臨む選手はゼッケンカウンターにてゼッケンを受け取りその場にて着用する
【ゼッケン返却時もゼッケンカウンター迄着用しゼッケンカウンターにて脱ぐ事とする】
【ゼッケン未着用選手は失格処分とする】
- 2 3) スポーツマンシップに則った競技者対応が出来ないとみなした選手は失格とする
【危険行為、指導、指摘、に対応しない選手は失格処分とする】
- 2 4) 大会（イベント）がなんらかの理由にて途中で中止になった場合はそのラウンドに残った選手以上で
ポイントを均等に分配するものとする
【一度中止になった大会は再試合しないものとする】

以上